法学教室 2024年度 内容一覧

2024年4月号(No.523)~2025年3月号(No.534)

巻頭言	執筆者	掲載号	頁
学びと顕彰――緒方洪庵の追賛碑から	斎藤 誠	523	1
新二重基準論	小島慎司	524	1
法科大学院20周年と刑法の教育・研究	橋爪 隆	525	1
ステイクホルダーシップと統一的な政策	松井智予	526	1
マルをつけよう運動	沖野眞已	527	1
土足	松下淳一	528	1
実務と学界の距離	川出敏裕	529	1
国民の司法参加——古今往来	斎藤 誠	530	1
国民衛兵	小島慎司	531	1
「虎に翼」と尊属殺違憲事件	橋爪 隆	532	1
ビジネスローと情報流通の健全性	松井智予	533	1
大人げないけれど, 前段・後段	沖野眞已	534	1
法学のアントレ(85)~			
旅の価値はその不安にある	高田実宗	523	2
留学の四季	大河内美香	524	2
在外研究と「図らずも」	東條明徳	525	2
海とビールとチーズバーガー	長谷川珠子	526	2
カナダ留学という選択肢	白水 隆	527	2
「働く」ということ	島村暁代	528	2
野球と法学	御幸聖樹	529	2
スポーツ法との出会い――縁と導き	川井圭司	530	2
生涯スポーツの見つけ方	横田明美	531	2
チアリーディングサークル顧問の悩み	藤澤治奈	532	2
スポーツ×ルールメイキング	得津 晶	533	2
スポーツのもたらす呪いと救い?	八田卓也	534	2
特集			
[4月号(523号)]			
特集 AIから法の世界へ			
I AI入門	藤田政博	523	6
II AIによる裁判の支援と代替の可能性	長島光一	523	12
Ⅲ 刑事司法システムに求められるAIの支援	中川孝博	523	17
IV AIの行政意思決定関与の許容範囲	黒川哲志	523	22
V 生成AIの利用が著作権侵害となる場合	前田 健	523	27
VI 国際法における軍事AI問題の本質 ——攻撃目標選定支援プラットフォームを手掛かりに	黒﨑将広	523	32
WI AI・デジタル化と法制事務	西村友海	523	37
[5月号(524号)]			
特集 憲法の基本原理・重要概念を学ぶ			
I 公共の福祉——その理論的重要性	愛敬浩二	524	6
Ⅱ 平等	榎 透	524	12
Ⅲ 国家と宗教	西山千絵	524	18
Ⅳ 民主主義	二本柳高信	524	25
Ⅴ 「人権+平和」をどう実現するか	青井未帆	524	31
[6月号(525号)]			
特集1 基本概念から学ぶ刑法			
I 法益保護主義	嘉門 優	525	6

Ⅱ 構成要件と犯罪論体系	松澤・伸	525	11
エ 行為無価値と結果無価値	佐藤拓磨	525	16
Ⅳ 責任主義	安田拓人	525	22
V 因果的共犯論	豊田兼彦	525	27
Ⅵ 本権説・占有説	小林憲太郎	525	33
特集2 消えた法律			
1 法律の消え方	梶山知唯	525	40
2 個人化する優生思想——優生保護法下/後の日本社会	水林 翔	525	45
3 陪審法――日本の陪審制度の成立の背景と停止に至った要因	藤田政博	525	49
4 種子法の廃止と独自条例の登場 ——規制改革と地域に根ざした法政策の行方	斎藤 誠	525	54
[7月号(526号)]			
特集 民法の基本原則・重要概念の再検討			
I 債権者平等の原則	鳥山泰志	526	6
Ⅱ 契約の第三者に対する効力	三枝健治	526	13
Ⅲ 人格的利益の侵害と差止請求	建部 雅	526	19
IV 「権限」とは何か	髙 秀成	526	25
V 承継取得と原始取得	平野秀文	526	32
[8月号(527号)]			
特集1 →タイムライン→労働法→			
I 労働者概念をめぐる「これまで」と「これから」——温故知新?	後藤 究	527	6
Ⅱ シューカツと労働法	本庄淳志	527	11
Ⅲ 解雇・採用内定取消法理の形成と展望	細谷越史	527	16
Ⅳ 労働時間の過去・現在・未来	北岡大介	527	22
V 日本における雇用平等法制のあゆみ	藤井直子	527	27
特集2 動物の愛護と福祉——動物法入門			
1 制定から25年を迎えた動物愛護管理法——現状と課題	箕輪さくら	527	34
2 消費者法と動物への配慮	谷本圭子	527	40
3 動物殺傷等を伴う宗教的行為と愛護動物虐待等罪	三上正隆	527	44
4 EUの動物福祉法	本庄 萌	527	48
[9月号(528号)]			
特集 会社法の基本原理・重要概念の再検討			
I 株主利益最大化原則(株主第一主義)とは何か	梅村 悠	528	6
Ⅱ 一株一議決権原則とは何か	酒井太郎	528	11
Ⅲ 資本充実の原則とは何か	尾崎安央	528	17
Ⅳ 定款自治,契約自由の原則と会社法の強行法規性 ——会社の意思決定をめぐる当事者自治	舩津浩司	528	23
V 企業買収行動指針における3原則	加藤貴仁	528	29
[10月号(529号)]			
特集 行政法学習に基本原理を活かす			
I 説明責任	田村達久	529	6
Ⅱ 比例原則	須藤陽子	529	12
Ⅲ 平等原則	鈴木崇弘	529	20
IV 効率性原則	宮森征司	529	26
V 公正·透明性原則	船渡康平	529	32
[11月号(530号)]			
特集 民事訴訟法の基本原理・重要概念の再検討			
I 法人でない社団の当事者能力	清水 宏	530	6
Ⅱ 一部請求	大江 毅	530	11
Ⅲ 主要事実·間接事実·補助事実	高田賢治	530	16
Ⅳ 裁判上の自白	柳沢雄二	530	21
V 既判力の客観的範囲と判決理由中の判断	岡成玄太	530	26

(2月年636月) (2月月636日) (2月	VI 当事者参加——共同訴訟参加と独立当事者参加	濱田陽 子	530	31
特集 基本原理と置要概念から学ぶ判審訴訟法		漠口吻丁	550	31
日				
1		本 拍卷日	521	6
田 当等者主義と総権主義				_
図 直接主義・口頭主義				
▼ 新祝の開連性 佐藤 次幸 531 31 (1月号(322年)) 1 (7月号(322年)) 1 (本議会 も入いとで考えてみる法学学習				
(7月号(532号)) 特集 も)いちど考えてみる法学学習 「(産験会)アフターコロナ・AI時代の法学――学習・教育・研究 常大人志・福田明美 か容易子・堀田周吾 532 3 3 1 1 シン(権止 木)―――『法学学習の&AJフォローアップ 横黒 印男子・堀田周吾 532 3 3 1 1 2 1 2 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1	———————————————————————————————————————			
特集 もういちど考えてみる法学学習		<i>江加</i> 米及 十	001	01
I 全座映会)アフターコロナ・AI時代の法学 学習・教育・研究				
7 日本語			532	6
特集 少年底は事件の調査・審判	Ⅱ シン・「推し本」――『法学学習Q&A』フォローアップ	横田明美・小谷昌子・堀田周吾	532	30
Ⅱ 保護地外の読色性質と内容 大良 葵 533 14 Ⅲ 保護地分の法的性質と内容 大良 葵 533 14 Ⅲ 浸透吹食と送致後の刑事裁判 吉中信人 533 27 Ⅳ 特定少年の処遇 洋田雅也 533 27 Ⅳ 特定少年の処遇 洋田雅也 533 34 *********************************	[2月号(533号)]			
工 保護処分の法的性質と内容 大貝 葵 533 14	特集1 少年法の基本			
□ 逆送決定と送致後の刑事裁判 古中信人 533 21 7 特定少年の処遇 津田雅也 533 27 7 付添人の役割と活動 岩本薫式 533 27 7 付添人の役割と活動 岩本薫式 533 34 34 34 34 34 34 3	I 少年保護事件の調査·審判	藤永祐介	533	6
下 特定少年の処遇 津田雅也 533 27 7 付添人の役割と活動 岩本憲武 533 34 532 7 7 7 7 7 7 7 7 7	Ⅱ 保護処分の法的性質と内容	大貝 葵	533	14
V 付添人の役割と活動 特集2 死者と法―「死者法」の構築へ向けて 第藤哲志 533 34 1 死者とは誰か―死んでいない者/物とその居場所 齋藤哲志 533 42 2 死者になる――安楽死に向きあう人権論 久保田枯介 533 46 3 死者を送る――野送書棚の多様性と法規制 問芝志保 533 53 5 死者は基る――SNSアカウントの相続を中心に 大塚智見 533 56 3月号(534号)** ***********************************	Ⅲ 逆送決定と送致後の刑事裁判	吉中信人	533	21
特集2 死者と法―「死者法」の構築へ向けて 1 死者とは誰か―死んでいない者/物とその居場所	Ⅳ 特定少年の処遇	津田雅也	533	27
1 死者とは誰か―死んでいない者/物とその居場所	V 付添人の役割と活動	岩本憲武	533	34
2 死者になる—安楽死に向きあう人権論 久保田祐介 533 46 3 死者を送る—群送墓制の多様性と法規制 問芝志保 533 49 4 死者は居残る——SNSアカウントの相様を中心に 大塚智見 533 53 5 死者は募る——AI時代の知的財産法的死生観 澤田悠紀 533 56 3月号(534号)] *** *** *** *** 6 I 労働と人権——ある閉塞感へ応答する可能性の一素描 木山幸輔 534 16 I 少子高齢化をめぐる正義 吉良貴之 534 11 II 苦情の正義 服部久美恵 534 16 IV ジェンダー規範と社会変革——大学入試女子枠制度から考える 野崎亜紀子 534 21 V 法学部教育の「閉塞感」を打ち破る—」法哲学の可能性 土井崇弘 534 25 VI SNSと分断 永石尚也 534 25 T SNSと分断 永石尚也 534 25 本で完全な公共圏における誤りとでたらめ(bullshit)の位置づけ 534 25 第213回国会主要成立法律 梶山知唯 529 39 第214回国会から第216回国会までの主要成立法律 梶山知唯 529 39 第214回国会から第216回国会までの主要成立法律 梶山知唯 526 44 大中自治と学外者統治の間—2023年国立大学法人法改正について 松田 浩 526 45 裁判官弾劾制度の急差と可法権の独立 新属奈々 528 44	特集2 死者と法——「死者法」の構築へ向けて			
3 死者を送る――葬送墓制の多様性と法規制 問芝志保 533 49 4 死者は居残る――――――――――――――――――――――――――――――――――――	1 死者とは誰か――死んでいない者/物とその居場所	齋藤哲志	533	42
4 死者は居残る——SNSアカウントの相続を中心に 大塚智見 533 53 56 5 死者は蘇る——AI時代の知的財産法的死生観 澤田悠紀 533 56 [3月号(534号)] 特集 閉塞艦に挑む法哲学 1 労働と人権 ある閉塞感へ応答する可能性の一素描 木山幸輔 534 6 11 少子高齢化をめぐる正義	2 死者になる——安楽死に向きあう人権論	久保田祐介	533	46
5 死者は蘇る――AI時代の知的財産法的死生観 澤田悠紀 533 56 [3月号(534号)] 特集 閉塞膨に挑む法哲学 I 労働と人権――ある閉寒感へ応答する可能性の一素描 木山幸輔 534 6 II 少子高齢化をめぐる正義 吉良貴之 534 11 II 苦情の正義 服部久美恵 534 16 IV ジェンダー規範と社会変革――大学入試女子枠制度から考える 野崎亜紀子 534 21 V 法学部教育の「閉塞感を打ち破る――法哲学の可能性 土井崇弘 534 25 VI SNSと分断 永石尚也 534 29	3 死者を送る——葬送墓制の多様性と法規制	問芝志保	533	49
[3月号(534号)] 特集 閉塞感に挑む法哲学 I 労働と人権——ある閉塞感へ応答する可能性の一素描 木山幸輔 534 6 II 少子高齢化をめぐる正義 吉良貴之 534 11 II 苦情の正義 股船久美恵 534 16 II ジニグー規範と社会変革——大学入試女子枠制度から考える 野崎亜紀子 534 21 V 法学部教育の「閉塞感」を打ち破る——法哲学の可能性 土井崇弘 534 25 V 法学部教育の「閉塞感」を打ち破る——法哲学の可能性 土井崇弘 534 25 II SINSと分断 永石尚也 534 29 II SINSと分断 泉石尚也 534 34 II 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15	4 死者は居残る——SNSアカウントの相続を中心に	大塚智見	533	53
特集 閉塞感に挑む法哲学 I 労働と人権——ある閉塞感へ応答する可能性の一素描 木山幸輔 534 6 II 少子高齢化をめぐる正義 吉良貴之 534 11 III 苦情の正義 服部久美恵 534 16 IV ジェンダー規範と社会変革——大学入試女子枠制度から考える 野崎亜紀子 534 21 V 法学部教育の「閉塞感」を打ち破る——法哲学の可能性 土井崇弘 534 25 VI SNSと分断 永石尚也 534 29 II SNSと分断 水石尚也 534 29 「第213回国会主要成立法律 梶山知唯 529 39 第214回国会から第216回国会までの主要成立法律 梶山知唯 534 34 IFO 問題 I現代的事例から学ぶストライキ 藤木貴史 524 44 大麻の濫用防止と法規制 太田達也 525 60 大学自治と学外者統治の間——2023年国立大学法人法改正について 松田 浩 526 45 裁判官弾劾裁判所令和6年4月3日判決を契機として 12024年問題」のこれからと法が果たす役割 高橋奈々 528 44 ICCの役割 特村仁美 528 50 自転車の交通ルール(反則金制度導入) 川本哲郎 529 53 憲法上の論点から見る日本版DBS 水谷瑛嗣郎 530 36 食品分野における科学技術の活用と安全性の確保 土屋仁美 530 42	5 死者は蘇る——AI時代の知的財産法的死生観	澤田悠紀	533	56
Ⅱ 労働と人権——ある閉塞感へ応答する可能性の一素描	[3月号(534号)]			
Ⅱ 少子高齢化をめぐる正義 吉良貴之 534 11 Ⅲ 苦情の正義 服部久美恵 534 16 Ⅳ ジェンダー規範と社会変革——大学入試女子枠制度から考える 野崎亜紀子 534 21 Ⅴ 法学部教育の「閉塞感」を打ち破る——法哲学の可能性 土井崇弘 534 25 Ⅵ SNSと分断 永石尚也 534 29 — 不完全な公共圏における誤りとでたらめ(bullshit)の位置づけ ポ石尚也 529 39 第214回国会から第216回国会までの主要成立法律 梶山知唯 529 39 第214回国会から第216回国会までの主要成立法律 梶山知唯 534 34 時の問題 現代的事例から学ぶストライキ 藤木貴史 524 44 大麻の濫用防止と法規制 太田達也 525 60 大学自治と学外者統治の間——2023年国立大学法人法改正について 松田 浩 526 45 裁判官弾劾裁判所令和6年4月3日判決を契機として 「2024年問題」のこれからと法が果たす役割 高橋奈々 528 44 ICCの役割 竹村仁美 528 50 自転車の交通ルール(反則金制度導入) 川本哲郎 529 53 憲法上の論点から見る日本版DBS 水谷瑛嗣郎 530 36 食品分野における科学技術の活用と安全性の確保 土屋仁美 530 42	特集 閉塞感に挑む法哲学			
□ 苦情の正義	I 労働と人権——ある閉塞感へ応答する可能性の一素描	木山幸輔	534	6
Ⅳ ジェンダー規範と社会変革——大学入試女子枠制度から考える 野崎亜紀子 534 25 Ⅳ 法学部教育の「閉塞感」を打ち破る——法哲学の可能性 土井崇弘 534 25 Ⅲ SNSと分断 永石尚也 534 29 ——不完全な公共圏における誤りとでたらめ(bullshit)の位置づけ 534 29 国会概観	Ⅱ 少子高齢化をめぐる正義	吉良貴之	534	11
V 法学部教育の「閉塞感」を打ち破る――法哲学の可能性 土井崇弘 534 25 VI SNSと分断 一不完全な公共圏における誤りとでたらめ(bullshit)の位置づけ 赤石尚也 534 29 国会概観 第213回国会主要成立法律 梶山知唯 529 39 時の問題 現代的事例から学ぶストライキ 藤木貴史 524 44 大学自治と学外者統治の間――2023年国立大学法人法改正について 松田 浩 526 45 裁判官弾劾制度の義義と司法権の独立 一裁判官弾劾制度の義義と司法権の独立 一裁判官弾劾制度の高義と司法権の独立 一裁判官弾劾制所令和6年4月3日判決を契機として 御瀬 昇 528 44 「2024年問題」のこれからと法が果たす役割 高橋奈々 528 44 ICCの役割 竹村仁美 528 44 IDE転車の交通ルール(反則金制度導入) 川本哲郎 529 53 憲法上の論点から見る日本版DBS 水谷瑛嗣郎 530 36 食品分野における科学技術の活用と安全性の確保 土屋仁美 530 42			534	16
VI SNSと分析 一不完全な公共圏における誤りとでたらめ(bullshit)の位置づけ 永石尚也 534 29 国会概観 第213回国会主要成立法律 第214回国会から第216回国会までの主要成立法律 梶山知唯 529 39 財の問題 現代的事例から学ぶストライキ 大麻の濫用防止と法規制 大麻の濫用防止と法規制 大麻の濫用防止と法規制 大麻の濫用防止と法規制 大連合治と学外者統治の間――2023年国立大学法人法改正について 裁判官弾劾制度の意義と司法権の独立 一裁判官弾劾裁判所令和6年4月3日判決を契機として 藤木貴史 526 44 大学自治と学外者統治の間――2023年国立大学法人法改正について 裁判官弾劾裁判所令和6年4月3日判決を契機として 松田 浩 528 528 45 大学自強力が表別でいるのである。 大学自動しのこれからと法が果たす役割 にCの役割 特別である。 高橋奈々 128 528 44 ICCの役割 自転車の交通ルール(反則金制度導入) 憲法上の論点から見る日本版DBS 素法上の論点から見る日本版DBS 素法上の論点から見る日本版DBS 表別でおける科学技術の活用と安全性の確保 水谷瑛嗣郎 150 530 36 食品分野における科学技術の活用と安全性の確保 土屋仁美 530 42	Ⅳ ジェンダー規範と社会変革——大学入試女子枠制度から考える	野崎亜紀子	534	21
国会概観	V 法学部教育の「閉塞感」を打ち破る——法哲学の可能性	土井崇弘	534	25
第213回国会主要成立法律 梶山知唯 529 39 第214回国会から第216回国会までの主要成立法律 梶山知唯 534 34 34 34 34 34 34 34 34 34 34 34 34 3	=+++++	永石尚也	534	29
第213回国会主要成立法律 梶山知唯 529 39 第214回国会から第216回国会までの主要成立法律 梶山知唯 534 34 34 34 34 34 34 34 34 34 34 34 34 3	国			
第214回国会から第216回国会までの主要成立法律 梶山知唯 534 34 時の問題		提出作品	520	20
時の問題 現代的事例から学ぶストライキ 藤木貴史 524 44 大麻の濫用防止と法規制 太田達也 525 60 大学自治と学外者統治の間——2023年国立大学法人法改正について 松田 浩 526 45 裁判官弾劾制度の意義と司法権の独立 柳瀬 昇 528 37 ——裁判官弾劾裁判所令和6年4月3日判決を契機として 「2024年問題」のこれからと法が果たす役割 高橋奈々 528 44 ICCの役割 竹村仁美 528 50 自転車の交通ルール(反則金制度導入) 川本哲郎 529 53 憲法上の論点から見る日本版DBS 水谷瑛嗣郎 530 36 食品分野における科学技術の活用と安全性の確保 土屋仁美 530 42				
現代的事例から学ぶストライキ 藤木貴史 524 44 大麻の濫用防止と法規制 太田達也 525 60 大学自治と学外者統治の間——2023年国立大学法人法改正について 松田 浩 526 45 裁判官弾劾制度の意義と司法権の独立 柳瀬 昇 528 37 ——裁判官弾劾裁判所令和6年4月3日判決を契機として 「2024年問題」のこれからと法が果たす役割 高橋奈々 528 44 ICCの役割 竹村仁美 528 50 自転車の交通ルール(反則金制度導入) 川本哲郎 529 53 憲法上の論点から見る日本版DBS 水谷瑛嗣郎 530 36 食品分野における科学技術の活用と安全性の確保 土屋仁美 530 42	第217日国本がの第210日国本などの工安成立広洋	1年出入11年	JJ4	04
現代的事例から学ぶストライキ 藤木貴史 524 44 大麻の濫用防止と法規制 太田達也 525 60 大学自治と学外者統治の間——2023年国立大学法人法改正について 松田 浩 526 45 裁判官弾劾制度の意義と司法権の独立 柳瀬 昇 528 37 ——裁判官弾劾裁判所令和6年4月3日判決を契機として 「2024年問題」のこれからと法が果たす役割 高橋奈々 528 44 ICCの役割 竹村仁美 528 50 自転車の交通ルール(反則金制度導入) 川本哲郎 529 53 憲法上の論点から見る日本版DBS 水谷瑛嗣郎 530 36 食品分野における科学技術の活用と安全性の確保 土屋仁美 530 42	時の問題			
大学自治と学外者統治の間――2023年国立大学法人法改正について松田 浩 裁判官弾劾制度の意義と司法権の独立 一裁判官弾劾裁判所令和6年4月3日判決を契機として528 柳瀬 昇528 7「2024年問題」のこれからと法が果たす役割高橋奈々 竹村仁美 1000分割528 竹村仁美 1000分割 	現代的事例から学ぶストライキ	藤木貴史	524	44
裁判官弾劾制度の意義と司法権の独立	大麻の濫用防止と法規制	太田達也	525	60
裁判官弾劾裁判所令和6年4月3日判決を契機として「2024年問題」のこれからと法が果たす役割高橋奈々52844ICCの役割竹村仁美52850自転車の交通ルール(反則金制度導入)川本哲郎52953憲法上の論点から見る日本版DBS水谷瑛嗣郎53036食品分野における科学技術の活用と安全性の確保土屋仁美53042	大学自治と学外者統治の間——2023年国立大学法人法改正について	松田 浩	526	45
ICCの役割竹村仁美52850自転車の交通ルール(反則金制度導入)川本哲郎52953憲法上の論点から見る日本版DBS水谷瑛嗣郎53036食品分野における科学技術の活用と安全性の確保土屋仁美53042		柳瀬 昇	528	37
自転車の交通ルール(反則金制度導入)川本哲郎52953憲法上の論点から見る日本版DBS水谷瑛嗣郎53036食品分野における科学技術の活用と安全性の確保土屋仁美53042	「2024年問題」のこれからと法が果たす役割	高橋奈々	528	44
憲法上の論点から見る日本版DBS 水谷瑛嗣郎 530 36 食品分野における科学技術の活用と安全性の確保 土屋仁美 530 42	ICCの役割	竹村仁美	528	50
食品分野における科学技術の活用と安全性の確保 土屋仁美 530 42	自転車の交通ルール(反則金制度導入)	川本哲郎	529	53
	憲法上の論点から見る日本版DBS	水谷瑛嗣郎	530	36
令和6年地方自治法改正——分権改革の中の補充的指示権 板垣勝彦 532 45	食品分野における科学技術の活用と安全性の確保	土屋仁美	530	42
	令和6年地方自治法改正——分権改革の中の補充的指示権	板垣勝彦	532	45

公益通報者保護制度の概要及びその見直しに関する状況	中野 真	534	46
判例クローズアップ			
法的性別と性自認——特例法手術要件の合憲性(最大決令和5・10・25)	齊藤笑美子	524	38
文化芸術活動に対する助成――「宮本から君へ」事件(最判令和5・11・17)	中林暁生	526	39
スル云州治動に対する助成――「呂本から右へ」事件(取刊 n 和5・11・17) 不起訴合意の有効性(最判令和6・7・11)	中 怀 呪王 八木敬二	534	40
个起訴ロ忌の有効性(取刊 T 和O・/・II)	八个収—	554	40
新法解説			
令和6年民法等の一部を改正する法律	棚村政行	529	46
講座			
憲法の基本原理から見る統治(1)~(11)	高田篤		
憲法の見方――オリエンテーションに代えて		523	43
「憲法」と「立憲主義」(1)		524	50
「憲法」と「立憲主義」(2)		525	66
権力分立・権力抑制		526	51
国民主権・民主制(1)		527	54
国民主権・民主制(2)		528	56
大日本帝国憲法——成立,展開,崩壊		529	67
日本国憲法の制定――日独比較を通じての分析		531	37
統治機構の導入――各論の組み立てと「代表者」・「代表」		532	52
政党		533	60
選挙		534	52
选字		554	32
事例で学ぶ行政法ゼミナール(13)~(24·完)	岡田正則		
行政事件と民事事件——大阪国際空港公害訴訟		523	49
行政不服審查——大阪府国民健康保険審査決定事件		524	57
抗告訴訟の対象(処分性)——横浜市保育所廃止条例事件		525	73
抗告訴訟の原告適格——大阪市納骨堂経営許可事件		526	59
訴えの利益等の訴訟要件——松戸市開発許可事件		527	60
取消訴訟の審理と判決——和歌山ベンジジン労災保険不支給事件		528	63
義務づけ訴訟・差止訴訟等の抗告訴訟——厚木基地第4次訴訟		529	75
当事者訴訟・民衆訴訟・機関訴訟——君が代予防訴訟		530	49
国家補償制度と損失補償——関西電力変電所予定地収用事件		531	45
国家賠償法1条の賠償責任——福島原発事故国賠訴訟		532	59
国家賠償法2条の賠償責任——鬼怒川水害訴訟		533	69
国家賠償請求権と国民国家——中国人「慰安婦」第2次訴訟		534	61
点と点をつなぐ不法行為判例(7)~(18・完)	1 E 1 50		
寄与度に応じた責任	中原太郎	523	55
不法行為における相当因果関係	山本周平	524	63
判例から見た監督義務者責任 土地工作物責任と営造物責任	長野史寛 中原太郎	525	79 65
		526	
プライバシー侵害による不法行為 判例から見た人格権侵害の差止め要件論	山本周平 長野史寛	527 528	66 69
協働関係における過失判断——医療事故を素材として	中原太郎	529	81 55
使用者責任と求償 権利の各種化による不法行為素は(よ)	山本周平	530	55 51
権利の危殆化による不法行為責任(上)	長野史寛	531	51 65
権利の危殆化による不法行為責任(下)	長野史寛	532	65 75
同性カップルの関係と不法行為法	中原太郎	533	75 67
民法709条の要件——条文と判例のあいだ	山本周平	534	67

#主代表訟知順度	会社法の時計(8)~(18・完)	松井秀征		
取締役の第三者に対する責任	株主代表訴訟制度		523	63
お別様性 1928	取締役の善管注意義務——経営判断原則		524	70
理	取締役の第三者に対する責任		525	87
自己棒式取情規制	投資単位としての株式		526	73
株式・前株予約権の不公正発行(上) 531 532 74	種類株式		527	72
株式・新株予約権の不公正発行(上) 株式・新株予約権の不公正発行(下) 総式・精株予約権の不公正発行(下) (自己株式取得規制		528	77
株式・新株予約権の不公正発行(下)	株式の譲渡制限		530	61
翻載両編	株式・新株予約権の不公正発行(上)		531	59
会社とは何か 534 75 民事執行・保全法の考え方(1)~(5) 民事執行・保全法の考え方(1)~(5) 民事執行の程類、執行機関 529 59 (債務名義、請求異議の訴え 530 68 執行文、強制執行の開始、手続の停止・取消し 531 65 金銭執行の対象財産 533 90 第三者異議の訴え、民事保全総論 534 81 近時の判例で学ぶ刑法(13)~(24・完) 保護責任者造業致死罪の成否 佐野文彦 523 69 ――最利平成の3・51・51/株別に登し号11頁	株式・新株予約権の不公正発行(下)		532	74
展事執行・保全法の考え方(1)~(5)	組織再編		533	84
民事執行の種類、執行機関 529 59 59 68名。 執来異議の訴え 530 68	会社とは何か		534	75
民事執行の種類、執行機関 529 59 59 68名。 執来異議の訴え 530 68	民事執行,保令注の考え方(1)~(5)	害★ 折		
債務名義、請求実践の訴え 530 68		月小 日	529	59
執行文、強制執行の開始、手続の停止・取消し				
会賛執行の対象財産 533 90 第三者異議の訴え、民事保全総論 534 81 1				
第三者異議の訴え、民事保全総論 534 81 近時の判例で学ぶ刑法(13)~(24・売) 保護責任者遺棄致死罪の成否 最料甲成(24・7: 24刑集66巻8号709頁				
近時の判例で学ぶ刑法(13)~(24・完) 保護責任者遺棄数死罪の成否				
保護責任者選案致死罪の成否				
展判甲成30・3・19刑集72巻1号1頁 傷害の意義 天田 悠 524 76 一最決平成24・7・24刑集66巻8号709頁 同時傷害の特例と一部共犯関係 玄 守道 525 93 強制力いせつ罪における性的意図 佐藤陽子 526 79 一最大判平成29・11・29刑集71巻9号467頁 初次ステムング目的での分譲マンション共用部分への立入りと住居侵入罪 数中 悠 527 78 一最利甲成21・11・30刑集66巻9号1765頁 次沢大輔 528 77 一最決平成21・31・51刑集66巻9号1765頁 微永 元 529 90 一最决平成24・10・9刑集66巻10号981頁 能永 元 529 90 一最决平成24・10・9刑集66巻10号981頁 諸が康をめぐる要件解釈と処罰範囲の規律 冨川雅満 530 75 一最利中成24・11の事業66巻47月5頁 操領罪における妻託関係 足立友子 531 73 一最利令和4・4・18刑集70巻3号58頁 東條明徳 532 81 一最決平成28・3・31刑集70巻3号58頁 東條明徳 532 81 一最決平成29・3・27刑集71巻3号183頁 第本表責 533 98 一最決平成29・3・27刑集71巻3号183頁 第本表責 533 98 刑事訴訟法のフレームワークを考える(13)~(21・完) 宇藤 崇 斯因制度 524 83 証拠裁判主義 525 100 自由心証主義 527 85 「疑わしきは被告人の利益に」の原則 528 89 被告人の証人適格	近時の判例で学ぶ刑法(13)~(24・完)			
最決平成24-7-24刑集66巻8号709頁		佐野文彦	523	69
議制わいせつ罪における性的意図		天田 悠	524	76
最大判平成29・11・29刑集71巻9号467頁		玄 守道	525	93
田製甲成21・11・30刑集63巻9号1765頁 名誉毀損罪における真実性の誤信 一最決平成22・3・15刑集66巻20号31頁 親族相盗例の適用 一最決平成24・10・9刑集66巻10号981頁 詐欺罪をめぐる要件解釈と処罰範囲の規律 一最決平成26・4・7刑集68巻4号715頁 横領罪における委託関係 一最対平成26・4・7刑集68巻4号191頁 参考人の虚偽供述と証拠偽造罪 一最決平成28・3・31刑集70巻3号58頁 虚偽供述による犯人隠避罪 一最決平成28・3・31刑集70巻3号58頁 虚偽供述による犯人隠避罪 一最決平成29・3・27刑集71巻3号183頁 賄賂罪における職務関連性 一最決平成29・3・27刑集 64 巻 6 号 865 頁 刑事訴訟法のフレームワークを考える(13)~(21・完) 計事訴訟法のフレームワークを考える(13)~(21・完) 計事訴訟は対理義 自由心証主義 「疑わしきは被告人の利益に」の原則 被告人の証人適格 528 89 被告人の証人適格		佐藤陽子	526	79
最決平成22・3・15刑集64巻2号1頁 親族相盗例の適用 徳永 元 529 90 ―最決平成24・10・9刑集66巻10号981頁 詐欺罪をめぐる要件解釈と処罰範囲の規律 冨川雅満 530 75 ―最決平成26・4・7刑集68巻4号715頁 横領罪における委託関係 足立友子 531 73 ―最判令和4・4・18刑集76巻4号191頁 東條明徳 532 81 ―最決平成28・3・31刑集70巻3号58頁 東條明徳 532 81 ―最決平成29・3・27刑集71巻3号183頁 荒木泰貴 533 98 ―最決平成29・3・27刑集71巻3号183頁 第8第における職務関連性 遠藤聡太 534 90 ―最決平成22・9・7 刑集 64 巻 6 号 865 頁 523 75 証拠開示制度 524 83 証拠裁判主義 525 100 自由心証主義 527 85 「疑わしきは被告人の利益に」の原則 528 89 被告人の証人適格		薮中 悠	527	78
最決平成24·10·9刑集66巻10号981頁 計数罪をめぐる要件解釈と処罰範囲の規律 冨川雅満 530 75 一最決平成26·4·7刑集68巻4号715頁		穴沢大輔	528	77
一一最決平成26・4・7刑集68巻4号715頁 接領罪における委託関係		徳永 元	529	90
──最判令和4・4・18刑集76巻4号191頁 参考人の虚偽供述と証拠偽造罪 ──最決平成28・3・31刑集70巻3号58頁 虚偽供述による犯人隠避罪 ──最決平成29・3・27刑集71巻3号183頁 賄賂罪における職務関連性 ──最決平成22・9・7 刑集 64 巻 6 号 865 頁 刑事訴訟法のフレームワークを考える(13)~(21・完) 証拠開示制度 証拠裁判主義 自由心証主義 「疑わしきは被告人の利益に」の原則 被告人の証人適格 「類別の証人適格 「疑れているのでは、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、	#:·····	冨川雅満	530	75
□ 最決平成28·3·31刑集70巻3号58頁 虚偽供述による犯人隠避罪 □ 最決平成29·3·27刑集71巻3号183頁 賄賂罪における職務関連性 □ 最決平成22·9·7 刑集 64 巻 6 号 865 頁 □ 中藤 崇 訴囚制度 証拠開示制度 証拠裁判主義 自由心証主義 「疑わしきは被告人の利益に」の原則 被告人の証人適格 □ 表決平成28·3·31刑集70巻3号58頁 □ 売木泰貴 □ 売木泰貴 □ 売木泰貴 □ 遠藤聡太 □ 534 □ 90 □ 90 □ 90 □ 90 □ 90 □ 90 □ 90 □ 90	William C.	足立友子	531	73
一最決平成29・3・27刑集71巻3号183頁遠藤聡太53490開路罪における職務関連性 一最決平成22・9・7 刑集 64 巻 6 号 865 頁宇藤 崇刑事訴訟法のフレームワークを考える(13)~(21・完)宇藤 崇訴囚制度52375証拠開示制度52483証拠裁判主義525100自由心証主義52785「疑わしきは被告人の利益に」の原則52889被告人の証人適格52996		東條明徳	532	81
世界では22・9・7 刑集 64 巻 6 号 865 頁 刑事訴訟法のフレームワークを考える(13)~(21・完) 宇藤 崇 訴因制度 523 75 証拠開示制度 524 83 証拠裁判主義 525 100 自由心証主義 527 85 「疑わしきは被告人の利益に」の原則 528 89 被告人の証人適格 529 96		荒木泰貴	533	98
訴因制度52375証拠開示制度52483証拠裁判主義525100自由心証主義52785「疑わしきは被告人の利益に」の原則52889被告人の証人適格52996		遠藤聡太	534	90
証拠開示制度52483証拠裁判主義525100自由心証主義52785「疑わしきは被告人の利益に」の原則52889被告人の証人適格52996	刑事訴訟法のフレームワークを考える(13)~(21・完)	宇藤崇		
証拠裁判主義525100自由心証主義52785「疑わしきは被告人の利益に」の原則52889被告人の証人適格52996	訴因制度		523	75
自由心証主義52785「疑わしきは被告人の利益に」の原則52889被告人の証人適格52996	証拠開示制度		524	83
「疑わしきは被告人の利益に」の原則52889被告人の証人適格52996	証拠裁判主義		525	100
被告人の証人適格 529 96	自由心証主義		527	85
	「疑わしきは被告人の利益に」の原則		528	89
被告人の自白 530 82	被告人の証人適格		529	96
	被告人の自白		530	82

被告人の証人審問権		532	87
量刑手続		533	105
刑事手続における適正手続		534	98
演習		毎号	
憲法	遠藤美奈		
行政法	朝田とも子		
民法	荻野奈緒		
商法	杉田貴洋		
民事訴訟法	川嶋隆憲		
刑法	安達光治		
刑事訴訟法	濵田 毅		
演習(レポート)		隔月	
社会保障法	橋爪幸代	524	104
環境法	横内 恵	526	100
刑事政策	小西暁和	528	110
国際法	藤澤厳	530	102
社会保障法	橋爪幸代	532	108
環境法	横内恵	534	120
判例セレクト Monthly			
判例の動き			
憲法	只野雅人	531	96
行政法	原田大樹	531	98
民法	吉永一行	531	100
商法	中東正文	531	102
刑法	松原芳博	531	104
民事訴訟法	山田 文	531	106
刑事訴訟法	亀井源太郎	531	108
憲法			
年金切下げと憲法25条・29条(最判令和5・12・15)	松本哲治	523	99
旅券発給拒否処分と海外渡航の自由(東京地判令和6・1・25)	只野雅人	524	107
地方議会における出席停止処分の前提となる陳謝の懲罰の審査範囲 (奈良地判令和6・1・16)	西村枝美	525	121
同性パートナーへの犯罪被害者給付金不支給事件(最判令和6・3・26)	西村裕一	526	103
SNSでの発言と裁判官の身分保障(弾劾判令和6·4·3)	松本哲治	527	108
受刑者の選挙権・国民審査投票権制限の合憲性(東京高判令和6・3・13)	只野雅人	528	113
言語権と教育——日本手話で授業を受ける権利はあるか (札幌地判令和6・5・24)	西村枝美	529	119
旧優生保護法国家賠償請求訴訟(最大判令和6・7・3)	西村裕一	530	105
DNA型データ等抹消請求事件(名古屋高判令和6·8·30)	松本哲治	531	111
警察による個人情報の収集・保有・提供とプライバシー (名古屋高判令和6・9・13)	只野雅人	532	111
刑事事件の訴訟費用と通訳料(大阪高判令和6・9・3)	西村枝美	533	127
アイヌ先住権訴訟(札幌地判令和6・4・18)	西村裕一	534	123
行政法			
刑事施設被収容者診療情報の不開示と国家賠償法上の違法性 (最判令和5·10·26)	興津征雄	523	100
辺野古代執行訴訟(福岡高那覇支判令和5·12·20)	田中良弘	523	101
行政上の強制徴収と訴訟による請求との関係(東京地判令和4・6・15)	原田大樹	524	108

租税特別措置法66条の6第1項に基づく委任命令の適用が適法とされた事例(最 判令和5・11・6)	大橋真由美	525	122
同性パートナーへの犯罪被害者等給付金支給の可否(最判令和6·3·26) 地方議会議員に対する出席停止の懲罰の司法審査対象性と狭義の訴えの利益 (仙台地判令和6·1·23)	興津征雄 田中良弘	526 527	104 109
青色申告承認取消処分と憲法31条の法意(最判令和6・5・7)	原田大樹	528	114
退職手当全部支給制限処分が裁量権の逸脱濫用ではないとされた事例 (最判令和6·6·27)	大橋真由美	529	120
メリット制対象事業主の労災保険給付支給処分取消訴訟の原告適格 (最判令和6·7·4)	興津征雄	530	106
公共組合の理事等の行為と国家賠償法1条1項の適用の有無 (東京高判令和6·3·14)	田中良弘	531	112
除斥期間の主張と信義則(最大判令和6・7・3)	原田大樹	532	112
公社住宅と借地借家法32条1項(最判令和6・6・24)	大橋真由美	533	128
ストーカー規制法4条1項の警告の処分性(大阪高判令和6・6・26)	興津征雄	534	124
民法			
将来賃料債権への抵当権者の物上代位と賃借人による相殺 (最判令和5·11·27)	小笠原奈菜	523	102
公職選挙法251条の規定により遡って市議会議員の職を失った場合における議員 報酬等の返還(最判令和5・12・12)	古谷貴之	525	123
相続回復請求権の消滅時効完成前における表見相続人による時効取得の 可否(最判令和6·3·19)	加藤雅之	526	105
公社住宅と借地借家法32条1項(最判令和6・6・24)	鳥山泰志	528	115
性別変更後の出生子による認知請求(最判令和6・6・21)	白須真理子	529	121
旧優生保護法訴訟——改正前民法724条後段の除斥期間に対する例外 (最大判令和6·7·3)	小笠原奈菜	530	107
不起訴合意の有効性と献金勧誘行為の違法性(最判令和6・7・11)	古谷貴之	530	108
医療法人の社員による総会の招集(最決令和6・3・27)	鳥山泰志	531	113
被相続人の傍系卑属であり、かつ被相続人の兄弟姉妹の養子縁組前の養子の子である者の代襲相続の可否(最判令和6・11・12)	白須真理子	534	125
商法			
特別利害関係人の議決権行使と株式交換の無効事由 (東京地判令和4·3·24)	山本将成	523	103
弁護士の資格を有する取締役が負う善管注意義務の程度 (東京高判令和4·9·15)	中東正文	524	109
退職慰労金贈呈議案の否決と不法行為責任(広島高判令和5・11・17)	小柿徳武	527	110
株券発行会社における株券発行前の株式譲渡の効力(最判令和6・4・19)	石川真衣	528	116
製品が大臣評価基準に適合しないことの報告・公表に係る取締役の責任 (大阪地判令和6・1・26)	山本将成	528	117
取締役が代表者を務める一般財団法人への寄付と取締役の責任 (静岡地判令和6·4·25)	山本将成	529	122
退職慰労金の減額規定の趣旨と取締役会の裁量権(最判令和6・7・8)	中東正文	530	109
株式併合による株主資格喪失と株主代表訴訟の原告適格の帰趨 (東京地判令和6・3・28)	小柿徳武	532	113
取締役の報告義務違反を原因とするストックオプション無償取得の機会逸失により会社が受ける損害(東京地判令和5・12・7)	石川真衣	533	129
株主名簿閲覧謄写仮処分命令申立事件における会社の不服申立てと株主総会の決議取消事由(東京地判令和6·3·27)	山本将成	534	126
民訴法			
共同訴訟における訴え提起の手数料と訴訟上の救助の付与対象となるべき額 (最決令和5·10·19)	伊東俊明	523	104

1筆の土地の一部についての所有権移転登記請求権を保全する土地全部についての処分禁止の仮処分と保全の必要性(最決令和5·10·6)	、工藤敏隆	525	124
消費者裁判手続特例法2条4号所定の共通義務確認の訴えにおける同法3条4項の該当性(最判令和6·3·12)	池田 愛	526	106
被告に対して損害賠償請求権を有すると主張する一般債権者の被告側への補助参加が許可された事例(神戸地決令和4·7·28)	〕伊東俊明	528	118
宗教法人とその信者との間において締結された不起訴の合意が公序良俗に反し無効であるとされた事例(最判令和6・7・11)	工藤敏隆	530	110
訴訟記録の閲覧等の制限の申立てに対する却下決定に補足意見が付された事例(最決令和6·7·8)	池田 愛	531	114
債権者代位訴訟における債務者の訴訟参加(大阪地判令和5・1・19)	伊東俊明	532	114
検察官による被疑者取調べの録音録画記録媒体に対する文書提出命令 (最決令和6·10·16)	工藤敏隆	533	130
文化功労者年金法に基づく年金の支給を受ける権利に対する強制執行の 可否(最決令和6·10·23)	池田 愛	534	127
刑法			
非監護者による性交と監護者性交等罪の共同正犯(松江地判令和5·9·27)	小池信太郎	523	105
時速約16kmで一方通行道路を後退で逆走した行為に危険運転致死罪の成立が		524	110
認められた事例(神戸地判令和5・10・27)	21614.27110		
義務履行の要求と強要罪の成否(最判令和5・9・11)	松原芳博	525	125
119番通報における犯罪事実の申告と自首の成否(旭川地判令和5・10・23)	齊藤彰子	526	107
窃盗罪における占有の存否の判断(東京高判令和4・7・12)	小池信太郎	527	111
児童ポルノ法7条4項にも5項にも該当する行為に5項を適用することの可否(最判令和6・5・21)	東條明徳	528	119
東名高速あおり運転事件第二次控訴審判決(東京高判令和6・2・26)	松原芳博	529	123
「強取」と「窃取」の限界(長崎地判令和6・6・4)	齊藤彰子	530	111
不正に入手した秘密鍵による暗号資産の移転と電子計算機使用詐欺罪 (最判令和6·7·16)	小池信太郎	531	116
承諾に基づく親族のETCカードの使用と電子計算機使用詐欺罪 (大阪地判令和6・5・8)	松原芳博	532	115
名誉毀損罪における公然性の認定(大阪高判令和6・6・20)	東條明徳	533	131
「制御困難な高速度」の意義(大分地判令和6・11・28)	齊藤彰子	534	128
刑訴法			
違法収集証拠排除と証拠の管理(東京地判令和5・10・3)	緑 大輔	523	106
刑訴法435条6号における明白性の判断方法(名張毒ぶどう酒第10次再審請求事件)(最決令和6·1·29)	亀井源太郎	524	111
控訴審における訴因の変更と審判の範囲(仙台高判令和6・1・30)	岩下雅充	525	126
訴因変更の許否(東京高判令和4・5・20)	池亀尚之	526	108
勾留時の個人特定事項秘匿措置と弁護人依頼権(最決令和6・4・24)	緑 大輔	527	112
訴因の設定と審判の範囲(最判令和6・5・21)	亀井源太郎	528	120
視聴覚障害者の住居への立入り(横浜地判令和6・3・21)	岩下雅充	529	124
捜索・差押えの際の電話使用の制限(仙台高判令和4・3・24)	池亀尚之	530	112
任意同行中の被疑者への弁護士からの電話と弁護人依頼権 (札幌高判令和6·6·28)	緑 大輔	531	116
刑事訴訟法316条の26第1項の証拠開示命令の対象 (東京高決令和5·10·11)	亀井源太郎	532	116
検察官の取調べの録音・録画記録媒体にかかる文書提出命令の可否 (最決令和6·10·16)	岩下雅充	533	132
証拠開示命令請求の棄却決定に対する即時抗告提起期間の起算日 (最決令和6·11·15)	池亀尚之	534	129

READER'S VOICE		毎号	
高橋和之=伊藤 眞=小早川光郎=能見善久=山口 厚 編集代表『法律	学小辞典〔第6版〕』	533	111
川出敏裕 編『少年法判例百選〔第2版〕』		533	40
小泉直樹 編『知財法務を知る——重要テーマとその実践』		532	119
伊藤一頼=岡田陽平=瀬田 真-竹村仁美=前田直子=川岸 伸著『概記	兑国際法 』		
加藤信行=萬歲寬之=山田卓平 編		532	118
杉本和士=北島典子=髙井章光『倒産法』		532	117
安田拓人『基礎から考える刑法総論』	<u>-</u>	532	93
友原章典『文系のためのPythonデータ分析——最短で基本をマスター	-1	531	119
早川吉尚=森下哲朗 編『国際取引法入門』	マート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	531	118
大村敦志=窪田充見 編『解説 民法(家族法)改正のポイント I ——20:	· · -	531	117
岩川隆嗣=大塚智見=小峯庸平=瀬戸口祐基『民法演習 はじめて解い	てみる16問』	530	115
デストーステム・ボーン ボーン ボーン ボーン ボーン ボーン ボーン ボーン ボーン ボーン	声がでし、プログロ時間	530	114
東京大学法学部「現代と法」委員会 編『いま、法学を知りたい君へ――	_世界を7\ろげる13譜』	529	102
川濱 昇=武田邦宣=和久井理子 編『経済法判例·審決百選〔第3版〕』		528 529	102
三		52 <i>1</i> 528	106
清小具布士-高橋美加 編』 商法総則・商行為法の現任——その現代1 三淵嘉子 執筆者代表『女性法律家 復刊版』	DICH11/ C	527 527	106
松尾剛行『法子司生のにめのヤヤリアエアュケーション』 清水真希子=髙橋美加 編『商法総則・商行為法の現在——その現代(とに向けて『	524 527	91
ハ四様と『劇へによいし、みとルール――カ劇法人门』 松尾剛行『法学部生のためのキャリアエデュケーション』		524 524	114
人澤 俗三川山敷俗 編』刑事訴訟法刊例日送し第11版1』 小西康之『働く世界のしくみとルール――労働法入門』		523 524	118
湖見住另一滝沢首彦三冲野真己『氏法』総則』 大澤 裕三川出敏裕編『刑事訴訟法判例百選〔第11版〕』		523 523	117
Book Information 潮見佳男=滝沢昌彦=沖野眞已『民法1 総則』		FOO	117
Dark Information			
全国大学生協/紀伊國屋書店(2024年10月~12月)		533	139
全国大学生協/丸善ジュンク堂書店(2024年7月~9月)		530	123
全国大学生協/紀伊國屋書店(2024年4月~6月)		527	119
全国大学生協/丸善ジュンク堂書店(2024年1月~3月)		524	119
法律書ランキング			
第74回"社会を明るくする運動"に寄せて	(五4万 目 体取用)	320	110
「変わっていく時間」に寄り添いながら	法務省保護局	526	110
その他の記事			
第23回インターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション	森下哲朗	534	132
早慶合同ゼミナール 法律婚・重婚的内縁の保護と、遺贈をめぐる諸問題	荻野奈緒・田髙寛貴・白石 大	523	108
REPORT	****		
DEDART			